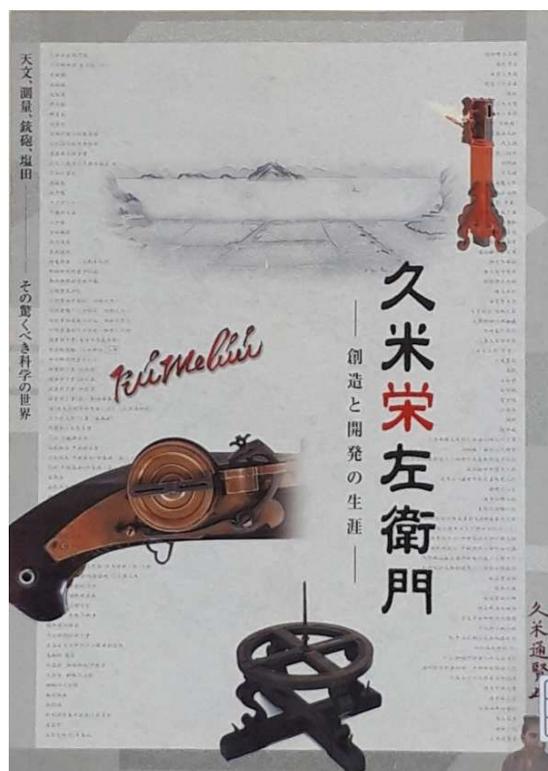


久米栄左衛門 —創造と開発の生涯—



今から遡ること 200 年、19 世紀前半の讃岐において、その後の科学技術や産業の発展に、多大な貢献をした一人の科学技術者がいました。久米栄左衛門(通賢)(くめえいざえもん(みちかた))です。

安永 9 年(1780)、高松藩領大内郡馬宿村(大川郡引田町馬宿)に生まれた栄左衛門は、幼い頃から器械工作に長けていたと伝えられ、やがて大坂の天文学者間重富(はざましげとみ)のもとで天文学や測量術を学び、精密な機器類にも接しました。文化 3 年(1806)、高松藩の命で、自製の測量器具を使って藩内の実測や天体観測を行い、2 年後、伊能忠敬(いのうただたか)率いる測量隊が讃岐に来た時は、藩命により案内役も務めました。

栄左衛門が生きた時代、幕府・諸藩とも、海防や財政問題への対応を迫られており、栄左衛門の関心・活動もそこへ向かいました。海防や軍事力の強化に関しては、銃砲火器類の発明や改良を行いました。

財政問題では、文政 7 年(1824)に藩へ提出した建白書のうち、坂出塩田の開発が採用され、自ら進んで指導にあたり完成させました。後に建白書中の糖業保護政策も藩が導入し、塩と砂糖により藩財政は好転していきます。栄左衛門は、持てる技術や知識を生かして、時代の要請にこたえた創造力豊かな科学技術者でした。

(平成 14 年、展示開催あいさつから。香川県歴史博物館)

(7101164841)